

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500042		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	さざなみ京都南 4階		
所在地	京都府京都市南区上鳥羽奈須野町23		
自己評価作成日	令和4年2月4日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2690500042-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひとまち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和4年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「楽しく・自由に・ありのままに。」「残された力で暮らす喜び。」の理念に基づいて、入居者様の思いに近づけるように心がけています。

出来ることはご自身で、残された力を発揮していただけるように見守りさせていただいています。

家庭的な雰囲気の中で、人生の最期まで、その人らしく生活できることを目指して支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

名神京都南ICから南西、鴨川の土手から300m程の位置にあり、施設の周辺は新しい住宅が点在し、広々と広がる畑の栽培物が居室や駐車場から眺められます。当該グループホームは、3ユニットそれぞれにリーダーを配置して、「段取りをして職員が後はやってくれる」との管理者の言葉通り、投げかけはするが、どのようにしていくかはスタッフ間で決めていくことを大切にされ、「スタッフが利用者の支援を一番に考えた上で、働きやすい職場を作っていきたい」との思いで取り組まれています。入居された時は車椅子で生活されていた利用者が手びきで居室とリビングを行き来している間に歩行が安定された支援やお茶やピアノ、将棋など経験されてきたことを大切にされレクリエーションに取り入れています。リビングで過ごされている利用者の笑顔は平均85歳から90歳の年齢を感じさせない、いきいき観が感じられました。職員は仕事の終了時に「一日のチェックシート」で、振り返り気づいたことを書き入れ、心の整理をし、「今日も一日お疲れさま」「明日もよろしくお祈いします」と書かれた紙面に管理者は必ずコメントをして渡されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にてスタッフ全員で理念の唱和を行っている。	法人理念『楽しく自由にありのままに、残された力で暮らす喜び』をもとに、「心と心でお一人お一人によりそう」との職員スローガンを作成し、理念・職員の心構え・スローガンを玄関に掲示し、朝礼で唱和して職員に浸透することを願っている。利用者には、出来ることは自分でしてもらうことを介護計画にして、自立につながる支援をしている。また、毎年12月の職員会議で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にフィーリングアートの方に来ていただいている。	町内会に入り、会長の役職も地域の一員として担い、地域の人との交流に力を注がれてきた。現在はコロナ禍で、「フィーリングアート」のボランティアの方だけ年3～4回きてもらっている。これは、音楽と光と絵画による体感型総合芸術で、スクリーンの絵を背景に歌を歌い、利用者の心を解き放つ内容でおこなわれ、喜ばれている。ただし、密にならないよう参加人数や時間を工夫して続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題として、認知症への理解を深めていただくためのイベントなどの開催を行う必要を感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて報告やご意見をいただいている。	運営推進会議はコロナ禍の中、書面開催で併設事業所と合同で、利用者、家族、後見人、陶化地域包括支援センター職員、近所の介護事業所職員がメンバーで、資料を議事録として配布し意見を聞いている。目標達成計画では、地域の代表者をメンバーとして参加してもらう事を目標にして、コロナ禍が収まれば民生委員がメンバーとして加わってもらえるようになる予定である。運営状況や事故報告と対策、イベントについて記載した議事録は、全家族、後見人にも送付し意見を求めているが、意見は出ていない。	コロナ禍で書面開催になっているが、メンバーに事前に資料を配布して、意見や質問や要望を求めたうえで、メンバーの意見も取り入れた議事録として、作成されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時担当者の方にお会いして入居者様の状況報告を行っている。	運営推進会議の議事録を届け、困難事例の相談や事故報告、共用デイサービスの申請相談など関係はできている。また、生活保護担当課とは利用者の処遇について、アドバイスをもらっている。地域包括支援センターが開催する「かけはし会議(閉じこもり老人の支援)」の開催時に会場提供をしているとともに、会議にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修をスタッフ全員で行い、スタッフに強い意識をもってもらいケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロ委員会を管理者、リーダー、ケアマネジャー、看護師で3ヶ月毎に行い、全体会議(月1回)で職員に伝達するとともに回覧・押印を義務付けている。年2回の研修後にも全職員にレポートの提出を義務付けて意識を高めている。スピーチロックなど、職員の気になる言動が見られた時は、管理者から朝の申し送りや職員会議で、どうしたらいいのかという課題を持たせて考えられるように指導をしている。家族の希望で、防犯対策として玄関は外からは開けられないようにしている。帰宅願望のある利用者は職員が寄り添い一緒に1階のホールから、実のなる樹や菜園を眺めて、気持ちを切り替えられるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において、スタッフ間で意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の権利についての研修会は行っている。後見人制度については、制度についての研修のみしか出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と運営規定に沿って説明を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などでの家族様との会話で要望やご意見を聞かせていただいている。	家族からは、電話や面会時に意向や要望を聞いている。法人で年1回利用者・家族に満足度アンケートを取り、集計し事業所に送られて来ると共に、ホームページで公開している。面会が無い利用者の気持ちを思い、1階ホールで面会をおこなっている。コロナウイルスに関する宣言が出れば面会を中止しているが、看取りになれば、部屋を移動して、面会してもらい、利用者とお別れが出来るようにしている。「家族からは匂いの出る食事を出してほしい」などの希望が出て日曜日にいろいろな種類のカレーを提供している。毎月、利用者のお元気な様子の写真や職員と管理者からの手紙と一緒に送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ全員での会議やリーダー会議にてスタッフの意見や提案を聞いている。	職員の意見はユニット会議(月1回)、リーダー会議(月2回)、全体会議(月1回)で聞くと共に、仕事の終了時に、「一日のチェックシート」の記入で振り返り、気づいたことを書き入れ、管理者が必ずコメントを書いて返している。職員の意見はシフト調整や支援内容の事柄が多く、お互いに他の人のことも思いやる気持ちで、働きやすい職場づくりを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境としてシフト作成時に柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価などを行ってもらい、自身の目標を設定してもらうことで技術の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を出来るだけ多く作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にしっかりとしたアセスメントを行うことやご家族様の思いもしっかりと受け止めて意向に沿ったサービスに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で家族様の思いや要望をしっかりと受け止め意向に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の思いに寄り添って少しでも、思いに近づけるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の思いに寄り添って、小さなことでもスタッフ間で共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様にお変わりがあった時は必要に応じてご家族様に相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの公園に出かけている。	入居時に家族やケアマネジャー、キーパーソンから生活歴や暮らしの様子、馴染みの人などの話を聞きとったものや、日常生活の中で、利用者のお話の中に出てくる昔の様子を職員で共有している。コロナ禍までは家族が実家に連れて行って、馴染みの人にも会っていた。また、馴染みの喫茶店や美容室にも行っていたが、今は手紙を出される時の支援をしている。お茶の先生だった利用者が、お茶をたてたり、ピアノの先生だった利用者が、ピアノの前に座られると指が動き出すなど、身に着いた馴染みのことが表出できる支援をしておられる。毎月、訪問美容は来てもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の思いを把握・尊重し、楽しく関わっていただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も連絡があれば、相談をお受けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様との日々のサービスの中で思いなどに気づき、意向などが反映されるように家族様とも相談している。	入居時のアセスメントや、フェイスシートから、利用者の意向を読み取ったり、日々の生活の中で利用者の思いや意向を伝えて貰える場面づくりに努めるなど、残存機能を見極めて、意向に沿うように支援をしている。また、利用者の好きな事や身に着いたことを再現できるように努めている。利用者が何をしている時に笑顔が見られるのか、表情で見極め意向にそえる支援をしている。将棋が好きなことが把握できた利用者には、将棋をしてもらえるように準備をしている。	

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お話の中に出てくる昔の様子をしっかりと聞き、他のスタッフとも情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での小さな変化に気づけるように努め、自立を促す(出来ることは本人で)などの支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の生活歴を把握し、思いに寄り添えるようにみんなで意見交換を行ってケアプランを作成し、支援していけるようにする。	フロア会議で毎月カンファレンスをおこない、介護支援専門員、介護計画作成者、管理者、介護士で、3ヶ月毎にモニタリングと必要時は計画の見直しをしているが、変化が見られない時は、6ヵ月～1年ごとに更新をしている。パソコンのソフトは、キズナとライフを使い、日々の利用者の様子から再アセスメントと計画の見直しをしている。個別支援経過記録はタブレットで職員全員が入力できるようにして、利用者の状態把握をしている。ただし、計画に沿った記録の仕方にばらつきがあるので、管理者やケアマネジャーが計画に沿った経過記録になるように、点検、指導をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中から気づきのケアを介護計画に反映させていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様のご希望、意向に添えるように、家族様と連絡をとりながらきめ細かなサービスを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しつつあるが、有効に活用する方法を模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	吉祥院病院の訪問治療や受診をさせていただいている。	2カ所の協力病院と提携し月2回の訪問診療がそれぞれに出来ることを入居時に家族・利用者に話し、時間をかけて選んで貰っている。歯科医の訪問も月2回、歯科衛生士も1週間ごとに来て貰い口腔ケアを実施している。看護職員は週に4時間勤務で、利用者の健康状態の把握や身の整容、24時間オンコールの契約をしている。緊急時は管理者に連絡⇒管理者⇒看護職員⇒、医師の判断を仰いでいる。	

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に状況を報告、相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様、家族様と相談しながら、医療機関との連携を図り、早期での退院を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの講習を開き認識を深め、家族様に同意をいただいた上で、医療機関とも連携している。	入居時の面接で「重度化した場合の対応にかかる指針」と「看取り介護にかかる指針」を説明し、同意書もらい、状態が変わった時の希望を聞いている。職員は看取りケアの研修で、「死にゆく人の心とからだのしくみ」と「終末期介護」についてなどを学んでいる。昨年度は、他の利用者や職員の気持ちに配慮しながら、部屋を移動させ、家族にも面会に来てもらいながら、10名の方を看取られ、感謝された体験をされている。看取り後は職員でモニタリングをし、遺族やキーパーソンには管理者が手紙を渡している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を目に付くところに貼り、連絡系統図も掲示して常に連絡できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、スタッフと共に入居者様にも参加いただいている。	年2回の避難訓練を昼間・夜間想定で実施している。速やかな各階への連絡方法や、近隣居住職員の協力が得られる夜間の連絡方法の確認をしている。2階から出火の想定での訓練では歩ける方は非常階段を下りて避難し、車椅子の人は2人介助で移動している。近くに河川があり水害時は1階が浸水する想定で、上階避難を計画している。近所の人の避難があれば受け入れる体制を整えている。備蓄は水、おかゆ、缶詰などを5階倉庫に保管している。コロナ禍が収まれば、地域の消防団員や地域の人と関わっていききたいと、予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの性格や人生史を考えて、声掛けや対応を考えて行っている。	「利用者の権利と尊厳」「コンプライアンス」「認知症の知識」などの研修を通して、利用者への接遇を学んでいる。利用者を苗字で呼び、その人にあった言葉がけでなれ合いにならないようにしている。また利用者の前で腕を組んだり、後ろ手を組まないように気をつけている。気になる言動があった時は、管理者に報告し送りやスタッフ会議で話し合っている。退勤時に1日のふり返しシートで、接遇や仕事の進め方をふり返し、気づきを記入して提出したものに、管理者がアドバイスを記入して返し、職員の意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々接する中で利用者様の思いをスタッフに伝えていただけるように空間づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	残存機能などを見極めてスタッフ同士で話し合い、入居者様の意向に添う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月一度理容業者の訪問を利用し、服も自己決定していただけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルの片付け、アルコール消毒などをスタッフと一緒にいき、今から食事が始まることを認識していただいている。	ご飯、みそ汁は事業所で作り、副菜は業者から調理済み食品2品、あとの1品は材料が届きレシピを参考に職員が調理して提供している。朝食は、乳酸菌飲料と果物を入れたヨーグルトを隔日に提供している。またパンやおかゆで朝食に変化をつけている。月1回、利用者のリクエスト献立の日を設け、毎週日曜日をカレーの日としいろいろなカレーが味わえるので、楽しみにされている。おせち料理や雑煮、赤飯、節分の恵方巻、ちらし寿司、流しそうめんなど季節を感じることで食事の提供をおこなっている。また、誕生日祝いには利用者の希望を聞いている。利用者はテーブル拭きや消毒を職員と一緒にこない食事が始まることの認識をもらっている。おやつは、手作りのたこ焼きやクレープも取り入れて楽しむ時もある。	外部評価の日の昼食は一汁三菜で食材の切り方や柔らかさ硬さも丁度良く食材の味が味わえて、薄味で美味しく調理されていた。アンケートで「利用者が食べている献立を知りたい」と、家族からの声があったので、利用者が楽しみにされている食事の取り組みを伝えていかれることをお勧めする。

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量に注意し、記録して足りていない場合には代替食品や原因を考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きなどの口腔ケア時に、口腔内の状態を確認し、報告・相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、サイクルを掴み、声掛けをして気分よく排泄していただいている。	1人ひとりの排泄パターンを把握することで声をかけ、トイレでの排泄を支援している。自立している人や介助を嫌がる人への今迄の支援の仕方を見直し、見守りや排泄後の確認を確実にすることで、職員は意識を高めた支援ができるようになってきている。また夜間は、利用者がトイレにいかれる時の確認がしやすい場所に待機をし、深夜は体位変換と共にパット・テープ式紙パンツの交換をしている。排泄用品の変更は介護支援専門員と相談して進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはバナナとヨーグルトを召し上がっていただいている。体操を1日に2～3回程度していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル測定・気分や体調をしっかりと確認し、一緒に入浴準備などをさせていただいている。	週2回入浴は、午前、午後に分け1日に3～4人が利用している。事前にバイタルや体調、気分の確認をし、一緒に入浴準備をして入浴が楽しみなものになるように話しかけている。職員は浴槽の横に寄り添い、コミュニケーションをとりながら見守っているが、介護拒否の方など利用者によっては脱衣所で見守っているときもある。浴槽に入る時は2人で介助をすることが多く、シャワーチェアを利用して洗身・洗髪をしている。一回ずつ湯の入れ替えをして気持ち良く入ってもらっている。入浴を拒否される場合は時間や日を変えたり、清拭をする場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝など、ご本人様のペースに合わせて支援させていただいている。		

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調不良時の受診もさることながら、服薬情報も把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調に合わせて、洗濯物たたみやトレー拭きなどのお手伝いをさせていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様、ご家族様のご希望があれば、外食レクリエーションを行っている。	現在は利用者の受診以外の外出はできていないが、昨年10月には紅葉狩りを楽しみに車窓ドライブに行ってきた。1階の畑や実のなる樹を見に行ったり、ホールでカフェ、足浴などをして気分転換が出来るようにしている。今後は、近所への散歩や大きな車で、車窓ドライブなどをもっと取り入れていく予定である。利用者と家族の希望で外食にも行かれている。1階の畑にきゅうり、トマト、ナス、さつまいもを植え収穫を楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設やご家族様の管理のもとで、生活用品の購入や嗜好品の購入をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望するときには支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションなどで作成された作品をフロアに飾り付けしている。	リビングは南側の大きな窓から明かりが入り、室内環境は加湿器と空調で調整すると共に、換気は適時おこない、心地よく過ごせるようにしている。長方形の大小のテーブルを離して置き、利用者の相性を考えた配席で、食事や体操、レクリエーション、テレビ、音楽を楽しんでいる。食事の時は車いすから椅子に移乗するようにしている。玄関には生け花を活けて、壁には利用者の書初めや、みんなと一緒に作った作品を飾り季節感を取り入れている。また、ソファでくつろげるようにもしている。	

京都府 さざなみ京都南 4階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを置いたり、利用者様同士のスペースに気を配り座っていただく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	片付け掃除を行い、使っておられた家具などを使用していただいている。	居室の入り口には表札を掲げ、利用者が、自分の部屋が分かり、安心して過ごせるようにしている。ベッド、タンス、テレビ、空調、カーテンが備え付けられ、寝具や自分の好きな本、楽譜、仏壇、位牌、遺影、家族の写真、プレゼント品、カレンダーなどの馴染みの物を持ち込み、居心地よく暮らしている。窓からは外の畑などの景色が見られ開放感がある。清掃や消毒は職員が毎朝おこない、清潔な環境には気を付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の出入り口にお名前をつけさせていただき、ご本人様で確認していただけるように工夫している。		